

# 第11回帯広市産業振興会議 議事録要旨

日時：平成22年11月30日（火）17:00～

会場：帯広市役所庁舎10階 第6会議室

## 1、開会

・開会にあたり、事務局より、7月7日付人事における管理職異動者について報告があった。

## 2、会長挨拶

## 3、議事

### (1) 主要テーマ～ビジョンの進捗状況について

・事務局から、①、②、③のそれぞれの進捗状況について資料に基づき説明があり、小委員会の取組状況については、各委員長より以下のとおり補足説明があった。

#### (ア) 十勝帯広ブランド化推進研究会

(委員長)

2月の研究会でブランドショーケースを完成させるということに向かって極めて順調に進んでいる。十勝ピザについては、十勝産の小麦を使ったピザ、十勝の産品にこだわったピザということで、順調に推移しているようである。熟じゃがのほうも、バイヤーの方に話をすると是非紹介して欲しいといわれることがある。紹介の仕方さえきちんとしていけば、このふたつの商品については、間違いなく受け入れられるものだと、そのように考えている。また、特許庁からの支援をいただいて事業をすすめているので、商標登録、知財化が大きな課題だが、これについては2月に三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社から市の所有となる。それ以降どのような形で管理・運営していくかということについて、小委員会で結論を出す。目標は富士宮やきそばのように商標を使用してもらいロイヤリティーで、おそらく立ち上げられるであろう運営委員会、あるいはNPO法人みたいなものの活動費がまかなえるようなそういう仕組みをつくっていきたい、そういう方向で検討していきたいと思っている。

#### (イ) 地域経済リサーチ小委員会

(委員長)

当委員会としては、先進事例調査で多くの情報を得てきたいということで事前に相当色々なことを委員会の中で話し合ってから調査をしてきた。調査は10月下旬であり、まだ小委員会のメンバーには報告していないという状態だが、簡単に説明すると、今回、この先進事例調査ということで5つの機関を選定し、目的を明確にもって調査してきた。リサーチ小委員会としては、地域にとって必要なシンクタンクをどのような形で設置すべき

なのか、あるいは他地域でどういう風にすすめているかを踏まえて、提言、提案を3月にするということであった。委員会の議論の中で、こういう類のシンクタンクの形は2つあり、ひとつは金融機関・銀行系のシンクタンク、ひとつは地域政策に特化した形のシンクタンクということで、今回その中で代表的なものを調査してきた。金融機関系のシンクタンクでは、足利銀行の総合研究所。一旦倒産したあしぎんが、もう一回あしぎんの総合研究所をもったということで、非常に地域に対する思いが強い金融機関だと感じた。その中でシンクタンクとして、実は宇都宮の市政研究センターと相当の棲み分けが行われた中で、総合研究所として存在していた。ここは、シンクタンクといってもコンサルティングに重点をおいた形で地域経済の活性化ということで苦労している。一方、長崎県の地域政策研究所「シンク長崎」だが、ここはまさに地域政策専門に受注している。取引の相手は民間の企業ではなくて、近隣の県や町村の自治体であり、そういうところから地域政策、地域にとってどうあるべきかということを受注しているシンクタンクであった。いずれにしても、帯広市もこういうのがあったらいいなという思いである。提言書の中身をどう書くかということ事務局・メンバーと話しあっていかなければいけないが、結局、これが持続可能な組織として成り立つためには、財源や収益をどう確保していくかということが問題になる。あしぎんの方は、本体からの実質経済的な支援で、単独では赤字という体質。一方長崎の地域政策研究所シンク長崎は黒字。しかし、人口が17万、仮に地域で考えて30万でも難しいのではないかという話を聞いている。この地域でどういう形で根付かせていくのか。どう持続可能性を求めるかというのはなかなか大変である。しかしこれから委員会のメンバーと議論を尽くしながら、この地域であればどのようなことが可能なのかを模索しながら、提言をしたいと思っている。当振興会議で諮り、意見をいただいた後、最終的に提言書を作るので、その際には叱咤激励していただきたい。

・会長から今後も両委員会をよろしく願う旨発言があり、これまでの説明について、各委員から以下のような発言があった。

(委員)

地域経済リサーチ小委員会の委員をしているが、(シンクタンクが)クライアントを地域の自治体だけでやれるところがあるという話を聞いて、理想的である。ただ、地域の規模ということもあるので、工夫しながら、地域のためのシンクタンクができて、地域全体の活性化になるような取り組みを民間レベルでできると良い。

(委員)

帯広市はロードマップを見ると順調な着手をしている。多分、今後は事業の選択と集中が出てくると思う。事業をどういう風に大括りでまとめていくか、そういう修正が求められる気がするが、この会議などで諮りながら進めていけばいいと思う。

小委員会の方で気になっていたのは、「十勝1100%」というのは3年か4年前に出した自給率なので、その後どうなのかというところだが、きりがいいので1100%としていても良いのではないかと考える。

(委員)

ブランド研究会のパンフレットの内容が抽象的な表現が多い気がする。今後の展開を教えていただければ。

(事務局)

パンフレットの内容は、議論されてきた内容を今の段階で整理したもの。ハードルが高い・低い、多い・少ないなどの意見がある。ひとつのモデルとして作ったわけだが、商標をどうやって使っていくかを具体的に決めていくが必要だと考えている。検討のなかで、商標はものづくりだけでなくサービス分野も使えないかという意見があるので、どういったサービスならよいかなど、チャレンジをしていきたいと考えている。

(委員)

素案の段階では化学肥料を使わない・有機などの意見もあったが、現実的に量を確保することが難しい。生産履歴・製造過程を開示し、十勝で加工・最終製品になった商品であるという2つのポイント。この2つがあればかなりクリアな基準が保てるのではないかと考えている。ただ、最終的には内容が変わる可能性はある。

(委員)

産業振興ビジョンのロードマップを見ると、きめ細かいビジョンの元に小委員会を持ちながらいろいろな取り組みを地域と一体となって取り組んでいるようで、帯広市の強さというのはこういうビジョンなくしてなしえないのかなと改めて実感している。地域経済リサーチ小委員会のシンクタンクについては、採算性、事業規模、地域における活用の問題などはあるが、地域経済を熟成させるということを見ると、竹川副会長の欲しいなという意味はそこにあるのかなと思う。これから提言書を作るにあたって、悩むとは思いますが、具体的には難しいとは思いつつも、一歩でもそこに近づくような提言書をお示しいただいて、中央会も一緒にお手伝いできるような環境づくりをしていただければ、自分たちが存在している意義もあると思うので、よろしく願います。

(委員)

ものづくり総合支援補助金で、どれだけの効果が得られたかということについて、このビジョンから行くと件数を指標としているが、売上げ金額ベースのほうがより理解できるのではないかと。補助金をいれることによって、売上げを何%プラスになったというのがわかり、納税者にとってもわかりやすくなるのではないかと。

(委員)

ロゴマークをサービス業にどうかという話もあったが、モノに対するロゴマークはいいが、観光交流も含めて考えた場合には、十勝の中で最終的に口にはいるおいしいものをどうできるのか。材料が良くてもうまいものでなければ、観光客にとってはうまくない。そういうところが飲食業、食品の製造も含めて、どういう風に味のレベルを上げていけるの

かということが、相当悩んでいる部分がある。具体的に企業は何が必要なのか、リサーチ委員会の方で、具体的にどうこうするというよりも、そういう視点も大事になるのではないか。今後の課題として提案したい。

(委員)

冒頭の進行状況を聞いて着実にすすめていることがわかり、非常に敬意を表する。その中で、たまたま新聞報道でみた、創業起業支援フェアに残念ながら行けなかった。産業振興会議の事業で実に良いことをやっているんだなと関心した。ただPRが目的になってはいけなかもしれないが、ぜひ市民にわかるような、そういうこと（PR）もある程度必要。ものづくり総合支援補助金という制度がなかなか知られていない部分があるのではないかという素朴な疑問があり、PRしたらもっと応募が増えるのではないか。

(委員)

スロウという雑誌があるが、中国語版と台湾版を出さないかという話があり、その中で十勝の産品をもっと積極的にとりあげて向こうで売れるようにしたら面白いなと思った。情報発信をいかに効果的にやっていくかということが重要な要素を占めているので、十勝に移住者をどういう風に増やすか、交流人口をどれだけ増やすかというのが十勝の経済にとって重要なことではないかと思っており、産業振興会議とうまく連携していくと面白いかと思う。

(委員)

ロードマップは字が小さくて見づらい。全てをやるということはできず、選択と集中でやるべきという話があったが、私もそう思う。この会議の初めに、PLAN-DO-SEE、PDCAで行っていくという話だったが、重点事項については、そういう感じで成果を求めていければいいのではないかと思う。

(会長)

これだけの全般のことをやるのは大変で、やはりメリハリをつけなければならない、とは思いつつ、来年の3月で任期を終えてしまうので頭を抱えている。本来ある進行状況のチェックというのが本会議の機能であるので、いずれにしても初めての振興会議でなかなか思ったとおりにいかないというのは自分でも思っている。

#### 4、報告事項

- (1) 産業振興担当職員ブログの開設
- (2) 国際戦略総合特区
- (3) ダブルトラッキングほか
- (4) 観光交流拠点施設

・事務局から、(1)～(4)のそれぞれの進捗状況について資料に基づき説明があり、説明後、各委員等から以下のような発言があった。

(委員)

要望だが、例えば、とかちむらを視察するとか、市で会議をやるというのを、実際に場所に行ってやるというのも良いかと思う。とかちむらに限らずそういう検討もあつたらいいかと思う。

(会長)

1月か2月に次回開催するが、競馬場内に会議室があるので、懇親会をとかちむらで開催するというのも検討する。

(委員)

ものづくり補助金についてだが、経営相談を行っていて補助金関係の問い合わせが非常に多い。国、道、帯広市の補助金などがあり、金額も分かれていて非常に使いやすい。金額はイノベーションを起こすのも大事だが、他の制度もにらみながら金額設定を行うのがいいかと思う。告知の仕方として、帯広市の補助金のパンフレットやチラシを見たことはないので、あるならば何部かいただければ告知に活用させていただきたい。なければ作成されることを検討してはどうか。

## 5、その他

・北海道中小企業団体十勝支部の今井事務局長から、平成22年4月から実施している「新卒者就職応援プロジェクト(地域・業種型)」について配付資料に基づき説明があり、広く周知されたい旨発言があつた。

## 6、閉会

・閉会にあたり、両副会長及び会長から以下のような発言があつた。

(副会長)

やはり定期的に行うということは非常に大事であると、会議にのぞむにあたって改めて感じた。ものづくり補助金を使わせてもらった立場からすると、中小企業にとっては書類作成が大変だというのはある。金額については、事業の進捗状況や規模によって変わってくると思うが、生産ラインにあわせた設備をメーカーと共同で開発するという事になった時に、次のイノベーションというステップになるかと思う。使う方は事業にかける情熱で様々な補助金を探し当てて、身の丈にあつた補助金を段階を経て使っていけるのがいいだろうと思うので、その辺りの配慮をいただきながら市の補助金のありかたも検討していく必要があるのではないか。中小企業にとって助かっていることは間違いないので、語弊があるかもしれないが、補助金や貸付金などの制度を充実していく方向で検討していければいいかと思っている。

(副会長)

振興会議のあり方や進め方については、今後、来年から後継組織としてすすめるのであ

れば、検討の余地はあると考えている。副会長をやらせていただいたが、振興会議の進め方とあり方の根本を考えて、経済性の原理にかなった効果的な会議体の活動をするべきであったと反省している。小委員会活動もあったが、特定の委員しか関われないという問題もあり、この会議自体の進め方についてもっと準備をして進めたほうが実のある会議であったかと反省もしている。行政の立場としては市民協働としてやってきており、民間としては相当腹をわった話をさせていただいたので、それはそれで有意義な感じであったと思っている。

（会長）

私もやりながら、ビジョン策定まではいろいろあったと思うが、これだけの範囲となるとD o やC h e c kが大変難しいと感じた。4月以降もなんらかの形で続くようならば、焦点を絞ってやらなければいけないかと思う。

以上